

# あしたのために、地球のために

アイシン環境学習プログラムのご案内

アイシン環境学習プログラムのお問い合わせ >>>

アイシン精機株式会社総務部 さわやかふれあいセンター

☎ 0566-24-8033 FAX 0566-24-8003

アイシン精機の環境の取り組みはホームページでもご覧いただけます。

☐ <http://www.aisin.co.jp/pickup/ecoschool/>

アイシンは、良き企業市民として、より良い地域社会の実現に向け、企業で働く社員も、同じ地域に住む「市民」として、企業市民活動を積極的に推進してきました。アイシンは「自然環境保護」「青少年育成」「まちづくり」の3つのテーマで活動し、これからも地域のみなさまと共に感じ、学び、笑い、共に汗を流し、共に活動することで、地域共生の輪を広げていきます。

活動例

- アイシンものづくり広場
- NPO活動応援基金
- 矢作川環境整備活動
- 緑の再生プロジェクト

■アイシン環境学習プログラム

監修 名古屋大学大学院環境学研究科 高野雅夫

協力 エコプラットフォーム東海、森あそび本舗、根羽村、

浅野智恵美(環境カウンセラー)



森の役割を  
知っていますか?



ゴミの行方と  
生き物との関係を  
知っていますか?



水辺が  
役立っていることを  
知っていますか?



環境に配慮した  
企業活動を  
知っていますか?

# 4つのテーマから1つお選びください。

## アイシン環境学習プログラム

### 地球の仲間たちの声を聞こう!

小学4~6年生を対象に約半年間、森・水辺・暮らし・産業の4つのテーマから選んでいただき、それぞれの学校での環境学習のお手伝いをします。「講座(座学)またはフィールドワーク(体験)」、ワークショップ(愛・シンバシーワークショップ)、エコ実践(エコアクション)、学習発表会(エコトークセッション)という一連のプログラムを通じて、子どもたちのより深い理解を期待できます。

テーマ①



森と動物、森と私たちのつながりを知り、私たちが森と森にすむ生き物たちと共存していることを実感します。

テーマ②



川と私たちの暮らし、川や海と私たちのつながりを知り、私たちが水と水辺の生き物たちと共存していることを実感します。

テーマ③



動物と私たちのつながり、限りある地球環境を分かち合っていることを知り、ゴミの分別や抑制の必要性を実感します。

テーマ④



リサイクルを前提とした材料や、環境負荷の低い製造工程など、企業の生産現場でも、環境に配慮していることを実感します。

### 学び(座学)と 感じる(体験)

学校の取り組みに合わせて「座学」か「体験」のどちらかを選ぶことができます。

「学び(座学)」では、エコの知識を学ぶことができます。



「感じる(体験)」では、学校の外に出て、実際の現場を目で見て触れて、五感で感じ学習します。



### 愛・シンバシーワークショップ

「人間」や「動物」になってカードゲームを進めます。限りある資源を共有していること、相手の気持ちを考えることを学びます。



### エコアクション

先生と子供たちによって、エコ活動を考え、学校や家庭で行動を実践していくことでエコの視点を身に付けます。



### エコトークセッション

連続講座で学んだ成果を発表します。保護者や地域の方々とも環境保護やエコライフの重要性を共有します。



## アイシンの環境への取り組み

経営理念のひとつに、「社会・自然との共生」を掲げ、持続可能な社会構築に貢献すべく、地球環境に対しても様々な活動を行っています。

環境負荷の低い製品・技術開発、半田工場内のエコセンターをはじめとして、環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。同時に地域社会での自然・環境保護活動に積極的に参加しています。

### ●アイシン緑の再生プロジェクト

富士山植樹活動は、2003年よりアイシングループの社員、地域市民団体の協力を得て、富士の麓に自生するイヌコリヤナギを富士山五合目の砂礫地に植樹し、「緑に包まれた富士山」を取り戻す活動として実施しています。



### ●矢作川流域の環境保全活動

アイシンは生産活動や飲料水などで恩恵を受けている矢作川流域環境保全活動に力を入れています。その一環として、上流域の長野県根羽村にて親子で自然とふれあい、楽しめるイベントとして「親子わんぱく体験隊」を実施して環境意識を育む活動を行っています。



## アイシン エコトピア

アイシンエコトピア「総合環境学習施設」は、'07年9月に完成し循環型社会の形成を目指し、リサイクル施設「エコセンター」、さまざまな生物が生息する「エコトープ\*」、エコセンターで作った堆肥で作物を育てる「エコ農場」などの施設からなり、子供達をはじめとする地域の皆様が環境について体験学習できる場であるとともに、アイシンが取り組むさまざまな環境施策の実験場でもあります。

工業排水を再利用し、地域在来の植物を植樹して、より自然に近い形で造られた「エコトープ」は生物多様性に富んだ場所として、生態系ネットワーク構築の一環を担っています。

\*エコトープとは、エコロジーとビオトープの合成語



学校生活や、家庭でできるエコアクションをみんなで考え、取り組みました。  
新しいエコアクションを見つけたら、クラスの「気づ木」に新しい葉っぱをはります。  
新しい「エコ」は、「気づ木」の葉っぱとなって、クラスの「エコの森」に生い茂ります。



プラグを抜き、  
少しでも節電できるよう  
取り組みました。



インターネットで調べた情報を、  
グラフにまとめました。



クラスのみんなに呼びかけ、  
たくさんの牛乳パック  
・空き缶・ペットボトルキャップ  
を集めました。



クラスのみんなに  
節水の呼びかけをしました。

不要な文房具が、  
1日に109個集まった。

給食をみんなが  
減らしたと思う。

ティッシュのごみが増えています。  
使い過ぎに注意しましょう。

興味をもって  
ごみ減量のポスターを  
見てくれた。

学校でも家でも、  
いつでも電気を  
消すように意識した。

節水をしている人を  
見つけた。

授業で水を使うとき、  
蛇口から出る  
水量を気にした。

大臣(担任)が  
集める活動に  
協力してくれた。



ごみ減量環境省として、  
気付いたことや  
成果を気づ木に貼りました。



どうしたら今より残菜が減るかを、  
残菜環境省の仲間と話し合いました。



不要になった文房具を回収し、  
学校での文房具集めに  
貢献したいと考えました。



ペットボトルやキャップを回収し、  
地域の資源回収ボックスに届ける  
計画をしました。

## 豊田市立古瀬間小学校4年生

2018年2月10日(土)

# #★! エコトークセッション

古瀬間小学校4年生85名は、  
くらしをテーマに生き物や地域環境を守るために、  
自分たちには何ができるかを考え、エコアクションをしました。



1

### 7月7日(金) エコパーティーへようこそ!

ごみをへらすことや、くりかえし  
使うこと、リサイクルがとてもだ  
いじなことだとよく分かりました。



8月25日(金)  
「夏・シンフォニーコース」として、  
先生も共に学びました。

2

### 10月10日(火) シンパシーワークショップ

人間がどれだけ動物や森に  
わるいことをしているかが、  
よく分かりました。



3

### 10月~ エコアクション

毎日、教室のごみの量を量  
り、減らせるごみについて帰  
りの会でみんなに呼びかけま  
した。使い捨てマスクが多く捨  
てられていることを知り、簡単  
に捨てたり落としたりしないこ  
とが大切だと気付きました。



- 市民講師  
浅野 智恵美(環境カウンセラー)
- 教育コーディネーター  
荒井 直人(NPO法人 アスクネット)

## エコ宣言

未来の環境のために、  
いま自分たちにできることを考え、  
実行し続けていきます。

1

学び（座学）  
と  
感じる（体験）

エコの知識を学び、体験で実際に見て、  
触れて、感じてみました。

### 生き物のかんきょう (森・水辺)

身近な場所にはどんな植物や虫や水の生き物がいるのが調べました。授業の中で、生き物が生きていくためにはどんなかんきょうが必要なのかを考えました。



### お買い物ゲーム (くらし)

教室の中に開店したスーパーでカレーライスの材料と飲みものを買う、お買いものゲームをしました。よう器や包そうをゴミ処理するにも、お金はかかるし、処理するときに二酸化炭素が発生する。「ものの一生」のお話を聞いて、ゴミを少なくする工夫を考えました。



### 水の大切さ (水辺)

地球が1.5mの直径だとしたら、世界にある水の量のうち人間が飲み水として使える量は、スプーン1ばいということがわかりました。



### エコパーティーへようこそ (くらし)

お菓子を食べ、お茶を飲みながらクイズにちょう戦するエコパーティー。3Rを学びゴミをへらすことの大切さと具体的な取り組みについて学びました。



### エコトピア (くらし・さんぎょう)

アイシンエコセンターでは、自動車部品から出たゴミをまた使えるプラスチックに昇したり、レンガを粉々にしてリサイクルレンガを作ったりしていることを知り、リデュース・リユース・リサイクルの大切さについて学びました。



2

シンパシー  
ワークショップ

「水辺の生き物」や「森の生き物」、  
「人間」になってみて、どんな気持ちになったかな？

「人間」、「水辺・森の生き物」などに变身して、その生き物が食べている「えさカード」を取っていくゲームをしました。「人間」が昔から今の生活になると、好き勝手に水辺や森にあるえさカードを取っていき、代わりに「ブラックカード」を住みかに置いていきます。このカードを引いた動物は・・・。  
みんなで人間や動物の気持ちになって考えました。



### 生き物にへ～んしん!!!

#### 第1ゲーム

動物チームがトラップの「しんけいすいじやく」のようなカードゲームを行う。動物のくらしに応じて、食べられるエサカードが決まっている。



#### 第2ゲーム

動物だけのすみかに人間がはいってくる。人間は頭が良く道具も使えるので、一回に3枚引くことができるが、後で「ありがとう」と言って返してくれる。



#### 第3ゲーム

人間は、3枚のカードをそろっていなくてもすべて持っている。その代わりにブラックカードをばらまき、次にそれを引いた動物も人間もゲームオーバーになってしまう。



### みんなでいっしょにふりがたり

これまでにおきているかんきょう問題を学び、「ブラックカードとは何か？」をみんなで答えを出し合いました。かんきょうほごの意味やかんきょうのために出来ることを考えました。



童・シンパシーゲームをやった森のことについて考えることができました。話し合いをきっかけに森の大切さや、かんきょうについて知ることができたと思います。

川には「ゴミをすてないでください」というかんばんをつくったり、「ゴミをおく場所においてください」というかんばんをつくって、いい町にしたいと思いました。

みんなでエコアクションに挑戦しました。  
自分の身の回りには、自分にできるエコがたくさんあることに気づきました。  
クラスの『エコの気づ木』の葉がいっぱいになって、いつかエコの森になることを願って、  
これからもみんなでいっしょにたくさんのエコを見つけ、エコアクションを続けていきたいです。



リサイクルには人の手間  
やお金がたくさんかかって  
いることが分かったので、  
リデュースを進んで行いた  
いと思います

ペットボトルより  
水筒を使うといいね。

レジ袋をもらわず、  
マイバックを持てよう。

雑紙をもやすごみに入れず、  
リサイクルしよう。

自然も人間も動物もみんな  
つながっていることが分かつた  
ので、自分たちのことだけで  
はなく、自然や動物のことも  
考えてくらしていきたいです。

トランプより大きな紙は  
エコボックスに入れよう。

ポイ捨ては  
絶対にしないよ。

つめかえ用を活用して、  
ごみを減らそう。

地球に優しいマークを  
すすんで見つけよう。

食べ残しをせず、  
残さず食べよう。

ごみをきちんと  
分別して出そう。



## 豊田市立根川小学校4年生

#★!  
◎? エコトークセッション

2018年2月27日(火)

根川小学校4年生87名は、  
くらしをテーマに地域や地球環境を守るために、  
自分たちには何が出来るかを考え、エコアクションをしました。

1

学び(座学)と  
感じる(体験)

座学で、エコの知識を学び、  
体験で、実際に見て、  
触れて、感じることで、  
より理解が深まりました。



2

シンパシー  
ワークショップ

カードゲームで、  
川の生き物の気持ちになって  
自然について感じ、考えました。



3

## エコアクション

毎日の暮らしの中で、  
自分たちにも  
「エコ」ができることが  
わかりました。



## エコ宣言

3R を心がけて、  
自然を大切にし、  
人も動物も幸せに  
くらせる未来をめざします。

1

学び(座学) エコの知識を学び、体験で実際に見て、  
感じる(体験) 触れて、感じてみました。

# エコパーティへようこそ!

今日からできるエコのワザを  
みんなで考えよう!



市長講師  
横野 智恵美さん  
(環境カウンセラー)



座学 体験 2017年9月6日(水)  
エコパーティへようこそ!

お菓子を食べ、お茶を飲みながらクイズにちよう戦するエコパーティ。  
3Rを学びゴミをへらすことの大切さと具体的な取り組みについて学びました。

今までリサイクルが大事だと思っ  
ていたけど、リサイクルが一番じゃ  
なくて、ゴミをへらすリデュースを  
さいしょからやっていたらいいこ  
とがわかりました。

わたしは商品のふくろ  
などにもお金がかかっ  
ているなんてとても  
びっくりしました。

私はペットボトルは、あらず、  
ラベルもキャップもつけたまま  
すすめていたのでこれからは、  
ラベルとキャップをとって分別  
したいです。

ごみをへらすために、  
わたしたちにできることはなんだろう?

2

シンパシー  
ワークショップ  
2018年1月24日(水)

「森の生き物」や「人間」になってみて、  
どんな気持ちになったかな?

「人間」「森の生き物」に変身して、その動物が食べている「食べ物」を取っていくカードゲームをしました。「人間」と「動物」ではちがうルールで進みます。「人間」は「動物」よりたくさんカードを取れます。「人間」が「昔の生活」から「今の生活」になると、「人間」は好き勝手に森にあるカードを取ってしまいます。さらに「ブラックカード」を「食べ物カード」のなかに置いていくことができ、このカードを引いた動物は死んでしまいます。どうすればいいのかな?



人間も動物も共に幸せにらせる環境をつくっていくことが大切だと思った。



人間が自然をこわしてしまつと、人間も動物も生きていけなくなってしまうと思った。



ブラックカードを出さないように、人間は自分たちにできることに取り組むことが必要だと思った。



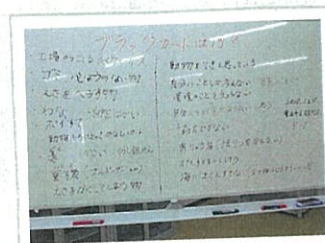
人間と動物と自然はすべてつながっているのだと思った。



動物によって食べられる(取ることができる)カードが限られます。



人間は自然や動物に対して、いためつけることもできれば、逆に守っていくこともできるということを知りました。



ゲームの後は「ブラックカード」とは何かを考えました。

